



○全国学力・学習状況調査の結果と分析

今年度は全国学力・学習状況調査を4月23日（木）に実施しました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に毎年小学校第6学年と中学校第3学年を対象に実施しています。

調査内容は教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）と学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する質問調査があります。

教科に関する調査の出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

となっています。

令和8年度 全国学力・学習調査の結果をお知らせします。

（１）教科に関する調査の結果 平均正答率（％） 英語は平均IRTスコア

※IRTスコアとは、問題の難易度および正誤パターンから学力を推定し、500を基準とした得点で示したもの

	国語	数学	英語（3技能）
全国	63.9％	57.0％	499
大木中	全国よりやや高め	全国より低め	全国より低め

（２）教科に関する調査結果の分析 成果と課題 （○：成果 △：課題）

<国語>

- 情報の扱いに関する事項の問題の正答率が高かった。また、文法、図表の読み取り、漢字、要約の各領域で成果がみられた。
- △ 説明的文章における文章構成を、正しくとらえることに課題がある。また、語句の意味を理解した上で、別の文章から同義の表現を見つけ出す「語彙の活用力」が弱い。

<数学>

- 対話を重視し、自ら考える場面を多く設定したことが、「思考・判断・表現」への粘り強い取組となり、難易度の高い課題に立ち向かうことができている。
- △ 「数と式」の領域での正答率が低く、基礎的な知識の定着に課題がみられた。

(3) 生徒質問調査の結果より

*家庭学習について

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】の回答割合

全国	大木中	全国との差
61.6%	45.2%	▼16.4

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】の回答割合

全国	大木中	全国との差
52.5%	41.2%	▼11.3

*今、求められる力（※¹肯定的回答割合<%>） ※¹「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた回答割合

	生徒質問調査	全国	大木中
主体的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	78.8	75.0
対話的な学び	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	87.0	78.8
深い学び	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	78.0	68.2
個別最適な学び	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた	78.9	83.7
協働的な学び	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.4	88.5
学びのアウトプット	授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	70.8	63.5

*非認知能力（※²否定的回答割合<%>） ※²「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた回答割合

	生徒質問調査	全国	大木中
やり抜く力	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	21.3	26.9
自制心	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいる	21.2	26.9
自己肯定感	自分には、よいところがあると思う	15.8	24.0
社会性	人が困っているときは、進んで助けている	8.6	12.5

(6) 生徒質問調査結果に関する成果と課題 (○：成果、△課題)

- 「今、求められる力」のうち、「個別最適な学び」に関連する質問項目「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」については、肯定的回答割合が高く、生徒自ら学びをコントロールすることが定着していると考えられる。
- 質問項目「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」と回答した割合が74.0%（全国29.3%）と極めて高い。また、「ICT機器を使って文章を作成したり、情報を収集・整理したり、発表用スライドを作成したりできますか」について、「そう思う」と回答した割合が全国と比較しても高いことから、ICT機器を活用する力はついてきている。
- 質問項目「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、肯定的回答割合が78.9%（全国72.3%）と高かった。
- △ ICT機器を活用する力はついてきているが、質問項目「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日あたりどれくらいに時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」については1時間以上と回答する割合が6.7%（全国12.0%）と低く、学校での学びが家庭学習に活かされていない。
- △ 「非認知能力」に関する質問項目ではすべてにおいて、否定的回答割合が全国よりも高い。特に、自己肯定感に関連する質問項目「自分には、よいところがあると思う」については「あてはまらない」と回答した割合が高い。

(7) 課題改善に向けた具体的な取り組み

<授業改善>

- ・生徒の状況に応じて学習の進め方やスモールステップの課題をより細かく提示するなど「できた！」と実感できる授業改善に取り組む。
- ・授業の導入で、授業のゴールを明確にし、生徒が自分の理解度やペースに合わせて、達成しようとするめあてを設定する機会をつくり、学習の見通しをもたせる。
- ・振り返りの視点や今後の学習を伝えるなど、生徒が見通しをもって振り返りに臨めるようにする。

<家庭学習・読書活動の充実>

- ・学校で学んだことを家庭で振り返ったり、家庭で調べたことを学校の授業で活かしたりするなど、学校での学びが家庭学習に活かせるよう、ICT機器を効果的に活用する。
- ・豊かな心情や考える力、感じる力などを育てるために、メディアセンター（学校図書館）を効果的に活用し、読書活動を充実させる。

<地域家庭との連携>

- ・中学校を卒業するまでに育てたい力を校区小学校・保護者・地域と共有し、授業改善や学習習慣、生活習慣の改善に取り組んでいく。